

# 産婦人科領域に於ける Methocarbamol 製剤の使用経験

昭和37年7月19日受付

信州大学医学部産科婦人科学教室

(主任: 岩井正二教授)

助 手 中 山 哲

大学院学生 津 田 達 雄

## Experience in Methocarbamol Preparation in Obstetrics and Gynecology

Satoshi Nakayama

Tatsuo Tsuda

Department of Obstetrics and Gynecology, Faculty of Medicine,

Shinshu University

(Director: Prof. S. Iwai)

### I. 緒 言

更年期並びに成熟婦人に発症する自律神経症の治療法としては、今日多くの方法が各方面より報告されている。此等症候群は精神的な苦悩と共に、肉体的な苦痛をも強く訴へる場合の多い事は周知の事であり、その対策は日常診療に際し頭を悩ます事が多い。

今回、我々はロバキシン: Robaxin (ダレラン製薬) の提供を受け、更年期障害を始め、産婦人科領域に於ける各種の患者に試用する機会を得たので、以下現在迄の成績につき報告する。

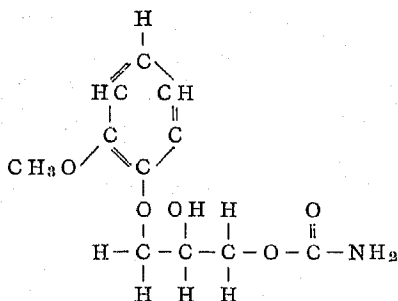
### II. ロバキシンの組成

ロバキシンはやゝ苦味を有する、融点92~94°C(熱湯、アルコールに溶け、20°Cの水には4%まで溶ける。下記の如き化学構造式を有する、白色結晶性粉末である。

化学名; 3-(O-methoxyphenoxy)-2 hydroxy

Propyl carbamate.

構造式



その主なる作用は骨格筋痙攣に關与する多相シナツプス反射を撰択的に抑制する事により疼痛の緩解に効果

があるとされ、動物実験による L. D<sub>50</sub> は静脈内注射では 805mg/kg, 経口投与による場合は 1900mg/kg で極めて安全度が高いとされている。

今回、我々の試用したロバキシン錠剤では、一錠中メトカルバモール 250mg, 又注射液は一筒 (5cc) 中 500mg を含有せるものである。

### III. 実験対象並びに投与方法

信大産婦人科外来患者で更年期障害並びに各種疼痛を訴へる患者28名で、症例は表1に示す如くである。

表 1.

病 名	例 数
更 年 期 障 害	13
月 経 困 難 症	6
附 属 器 炎	3
癌 後 遺 症	3
そ の 他	3

(癌後遺症は子宮頸癌2例, 卵巢癌1例を含む)

投与方法は錠剤は一回2錠ずつ(毎食后30分)一日3回に分服せしめ、又注射は一日一筒の筋肉内注射を実施した。

28例中経口投与のみ7例、注射との併用例21例であった。

尚効果の判定は Kupperman の更年期指数を参考とし、更に腰痛、肩こり、疲労感、下腹痛等をも加味して検討を行った。

#### IV. 臨床成績

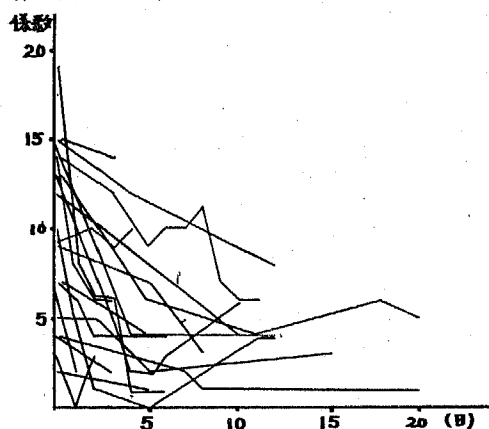
以上28例の臨床成績では大多数の例に各種症状の中、何れかが消失又は緩和が認められ、無効は1例のみであつた。

Kupperman 指数、症状、投与方法等により少しく検討すると以下の如くである。

##### (i) Kupperman の更年期指数による検討

Kupperman は更年期患者の愁訴の中、最も一般的な11ヶの自覚症状に、その頻度に応じて、夫々一定の係数を設定した。この係数を参考にして症状の変動を数値的に現はし、効果を客観的に比較検討した成績は第1図の如くであり、投与により係数低下例（即ち効果例）の多い傾向を認めた。

第1図 更年期指数変動情况



##### (ii) 症状による検討

症状別では各種の愁訴の中、特に主訴と思はれるものに対する効果は表2の如くであり、他の随伴症状に対する効果は表3の如くで、下腹部痛を除く他の症状に対しては、可成りの効果が認められた。

表2. 主訴に対する効果

主 訴	例 数	有効例
頭 痛, 頭 重	7	5
腰 痛	4	2
全 身 倦 怠	3	3
不 眠	3	3
の ぼ せ	2	1
肩 こ り	2	1
下 腹 痛	3	2
め ま い	1	1
し び れ	1	1
心 悸 亢 進	1	1
関 節 痛	1	0

表3. 随伴症状に対する効果

症 状	例 数	有効例
血管運動神経障害 (のぼせなど)	10	6
感覚知覚異常 (しびれ ひえ)	11	7
不 眠	13	5
神 経 質	5	3
憂 う つ	3	2
め ま い	11	10
全 身 倦 怠	11	6
関 節 痛, 筋 痛	10	6
頭 痛, 頭 重	17	12
心 悸 亢 進	9	5
蟻 走 感	2	1
腰 痛	15	11
肩 こ り	14	8
疲 勞 感	7	4
下 腹 痛	3	0

##### (iii) 投与方法による検討

錠剤のみを用いた症例でも注射との併用例に比べ殆ど差は認められなかつた。

尚、副作用は内服例では睡気、食欲減退を各一名に、又注射例では少数例に注射部位の疼痛を訴へる者が認められたが、特別な処置を必要とするものは1例も認められなかつた。

#### V. 考按並びに結語

各種の疼痛を主訴に婦人科外来を訪れる患者の多い事は我々の日常よく経験する所であるが、その訴へは多種多様で従来より各種の鎮痛剤、鎮静剤を始め多くのものが使用されている。即ちホルモン療法を始め、塩酸プロカイン緩液静注法、臓器埋没法、クロールプロマジン、トランキライザー、レ線照射、精神療法等が実施され、かなりの成績が認められている。

ロバキシンに関しても大沢等の臨床成績が出されているが、本剤は以前から筋痙攣緩解作用に就き注目されていた Mephenesin の guajacolate の monoorbamate で1953年 Murphey により合成されたものであり、多相シナプス反射を選択的に抑制して優秀なる筋弛緩作用と、此れに関連する疼痛に著効ある事が認められている。

今回、吾々の臨床試用例でも数回の注射又は投薬でかなりの効果が認められ、且つ副作用も数例に睡気、食欲減退並びに注射局所疼痛を認めたにすぎなかつた。

以上の結果より従来の鎮痛剤、鎮静剤に比べ、その作用範囲が広い事等からも、婦人科領域に於ける新しい治療剤として、一応使用価値あるものと考へられる。

(岩井教授の御指導、御校閲を深謝する)

#### 主 要 文 献

- ①平元：産と婦，29：32，1962。 ②岩淵：産と婦，29：35，1962。 ③丸嶋他：産婦の世界，1：458，1949。 ④丸嶋他：産婦の世界，2：174，1950。 ⑤丸嶋他：産と婦，18：549，1951。 ⑥丸嶋：産婦の世界，7：584，1955。 ⑦丸嶋：産と婦，29：44，1962。 ⑧馬島：産婦の世界，3：742，1951。 ⑨織田：産婦の世界，8：1035，1956。 ⑩大沢：産婦の実際，11：284，1962。 ⑪塩見他：産婦の世界，6：1166，1954。 ⑫沢崎：産と婦，18：10，1951。 ⑬安井：産婦の世界，10：95，1958。 ⑭安井：産と婦，25：13，1958。